

治水対策案に対する評価軸と考え方(1/2)

評価軸	評価の考え方
安全度（被害軽減効果） （流量低減、水位低下、資産被害抑制、人身被害抑制の観点で適宜評価する）	河川整備計画レベルの目標に対し安全を確保できるか
	目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるか
	段階的にどのように安全度が確保されていくのか（例えば5、10年後）
	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか（上下流や支川等における効果）
コスト （必要に応じ、直接的な費用だけでなく、関連して必要となる費用についても明らかにして評価する）	完成までに要する費用はどのくらいか
	維持管理に要する費用に要する費用はどのくらいか
	その他の費用（ダム中止に伴って発生する費用等）はどのくらいか
実現性	土地所有者等の協力の見通しはどうか
	その他の関係者等との調整の見通しはどうか
	法制度上の観点から実現性を見通しはどうか
	技術上の観点から実現性を見通しはどうか
持続性	将来にわたって持続可能といえるか
柔軟性	地球温暖化に伴う気候変化や社会環境の変化など、将来の不確実性に対する柔軟性はどうか
地域社会への影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か
	地域振興に対してどのような効果があるか
	地域間の利害の衡平への配慮がなされているか

評価軸による評価の考え方について

治水対策案に対する評価軸と考え方(2/2)

評価軸	評価の考え方
環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか
	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか
	土砂流動がどう変化し、下流河川・海岸にどのように影響するか
	景観、人と自然との豊かな触れ合いにどのような影響があるか
	その他（特筆される環境影響）

評価方法

- ・評価軸ごとに評価を行う。
- ・コストは定量的な評価が可能のため、順位を付ける。
- ・コスト以外は定量的な評価が困難のため、評価の考え方ごとに考察を行った後、○△×により評価を行う。

評価軸による評価の考え方について

利水対策案に対する評価軸と考え方(1/2)

評価軸	評価の考え方
目標 (各種計画との整合、渇水被害抑止、経済効果等の観点で適宜評価する)	利水参画者に対して、開発量としての必要量(何m ³ /s)を確認するとともに、その算出が妥当に行われているかを確認することとしており、その量を確保できるか
	段階的にどのように効果が確保されていくのか
	どの範囲でどのような効果が確保されていくのか(取水位置別に、取水可能量がどのように確保されるか)
	どのような水質の用水が得られるか。
コスト (必要に応じ、直接的な費用だけでなく、関連して必要となる費用についても明らかにして評価する)	完成までに要する費用はどのくらいか
	維持管理に要する費用はどのくらいか
	その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどのくらいか
実現性	土地所有者等の協力の見通しはどうか
	関係する河川使用者の同意の見通しはどうか
	発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか
	その他の関係者との調整の見通しはどうか
	事業期間はどの程度必要か
	法制度上の観点から実現性を見通しはどうか
	技術上の観点から実現性を見通しはどうか
持続性	将来にわたって持続可能といえるか
地域社会への影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か
	地域振興に対してどのような効果があるか
	地域間の利害の衡平への配慮がなされているか

評価軸による評価の考え方について

利水対策案に対する評価軸と考え方(2/2)

評価軸	評価の考え方
環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか
	地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか
	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか
	土砂流動がどう変化し、下流河川・海岸にどのように影響するか
	景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか
	CO2排出負荷はどう変わるか
	その他（特筆される環境影響）

評価方法

- ・評価軸ごとに評価を行う。
- ・コストは定量的な評価が可能のため、順位を付ける。
- ・コスト以外は定量的な評価が困難のため、評価の考え方ごとに考察を行った後、○△×により評価を行う。